

生産者さんに

KITTEMITA Vol.10



海を見渡せる畑で
太陽をたっぷり浴びて
つやつやと輝く

返礼品：カイトフルーツのパッションフルーツ
樺山さんは、ご自身でも生産を増やす傍ら、伊仙町内のパッションフルーツ農家を増やそうと計画中。つやつやで立派なパッションフルーツが毎年収穫されます

Q1.生産するうえでのこだわりを教えてください。

カイトフルーツのハウスは阿三（あさん）集落にあります。ここは海側の地域なので日照時間が長く、甘酸っぱくておいしいパッションフルーツを収穫できます。

今後は有機栽培を計画しています。今は農薬を使わず栽培し、収穫時期が終わったら、翌年に向けて新しい苗に植え替えます。そうすることで農薬なしでも病気が少なく、翌年には立派な実が収穫できるんです。



カイトフルーツを営む、樺山さん。

Q2.大変なことや、課題はありますか。

これまでは、受粉を手作業で行っていましたが、今年からは蜂をハウス内で飼い、蜂に受粉をしてもらいます。一日1000個近くの花に受粉の作業をしていたので、労力がだいぶ減りました。また、花の見逃しも減り、無駄を少なく栽培できると思います。

でもやっぱり、パッションフルーツの栽培で一番大変な作業は、わき芽や蔓をとる作業。蔓はしっかり取らないと絡まってしまったり、育った実を傷つけてしまうことがあるので、丁寧に行います。



つぼみにつく、この蜜を蜂が集めます。

Q3.今後、挑戦したいことはなんですか。

伊仙町内では現在、パッションフルーツの農家が3件ほどしかありません。そのため、新しく農家になってもらえるような、参入しやすい仕組みづくりを考えています。具体的には、出荷できない実で商品を開発したり、路地での本格的な栽培を可能にしたいと考えています。



皮がしわしわになったら食べごろです。